

平和を守れ

日本民主青年同盟京大地区委員会
理論機関紙

一九八五年十月二十五日

1 鈴木退陣は何を意味するか

先刻周知の通り、10月12日鈴木首相が退陣を表明した

後、今日自民党は国民無視の派閥抗争をつづけ、予備選へと突入しました。80年同時選挙で安定多数を得、一見、びくともしない体制をつくりあげましたが、私たちが一貫して主張し続けてきた通り、国民との矛盾を捨て、鈴木退陣という事態に至っています。こうした事態に至った原因は、第一に政策的ゆきづまりです。これは、たんに手順や段どりの不首尾ではなく、アメリカと財界に従属する政権として、平和の問題では限定核戦争を肯定し、日本を核戦争の足場とするアメリカの立場を容認・弁護し、同時に経済の問題では、軍事費優先・大企業奉仕の経済政策をとるというところからくる、国民生活安定と福祉をもとめる

国民要求との基本的な矛盾によるものです。

第二には、政治等勢の反倫理性です。ロッキード証人

騒動などでも強引に押しきってきましたという、政治勢における倫理性の欠如、こういうものが広く国民の不

人気をよび、支持率15%というところまで低落しました。しかし、現状は依然として政権の自民党タライ回しに終わらうとしています。やはり、退陣の理由をみても、臨時・軍拡をつらぬき通すという財界・自民党の基本姿勢から見ても、今こそ政治の構造的転換が必要といえます。

2 国政革新の展望・革新統一戦線

同時に注視する必要があるのは、今回の場合いかゆる「野党受け皿論」が出てこないことです。社会党や総評が社会中心の内閣づくりや保革連合政権をとなえていますが、やはりこれは思いつきの小手先の主張・宣伝にすぎません。

また、民社党・公明党のいうのも、自民党路線を基本的に支えるという従来の路線を堅持したうえでのボーグスとりに

国政革新への力を草の根へ

そして

不破哲三

10.27 大演説会へ

すきません。

こういう現状での基本的な打開の方向は、やはり民青同盟の主張するようない革新統一戦線を実現することです。

4. 二つの訴え

今起き起こる国民の力を革新統一の力として結集させ

るために、私たちは学友の皆さんに二つのことを主張します。

① 反核平和・脇調反対の声を一層草の根に定着させよう。

国連軍縮調査も10月に始まり、12月議会へむけて京都非核世界言の運動が高まりつつあります。これらを成功させることにはじめ示された力を一人ひとりのものにする上

げ極めて重要なことです。

② 10.27日本共産党大演説会に参加しよう。(内山勝也)

この演説会は、激動する情勢、とりわけ鈴木退陣後の政局を、国会内外で革新の旗を守って斗争共産党的の声

が聞けます。かつ最高幹部、不破哲三の話がきける絶好の機会です。ぜひ多くの皆さんお出で下さい!!

の活動や、労働戦線での統一労組懇親会(一五〇万人)のうち、まだ先日の香川県知事選の革新統一の勝利などもあります。